

「育成会活動について」



本島青少年育成会会長 伊東 辰昭

本年度、会長を務めるにあたり、育成会が足りた理由とその意味を理解し、子ども達の自主的な集団活動を守り育成する為の諸条件を整備する責任がある事を念頭に、本島の育成会をまとめ進めたいと思っております。

育成会活動においては、子ども達の生活空間である地域が良い人間形成の場となる様な環境作りが重要で、通学路及び遊び場などの安全対策、環境整備などはもとより、非行問題に伴う環境悪化は

「ビーズ講習会に参加して」



太田地区 小林 滋子

私達、ビーズが好きな仲間二十人程が集まり、四回の講座に参加しました。伴野先生のやさしい指導のもとに、ネックレス、指輪とステキでかわいい作品が出来上がりました。

ビーズにふれる事が初めてな人、ベテランの人、さまざまですが、楽しい一時を過ごしています。悪戦苦闘しながらも出来あがった時の喜びは最高です。そもそもビーズとは、貴婦人達が楽しんだ手芸だったそうです。私達も貴婦人になろうと、作りながら、心にゆとりを持ち楽しんでいきます。出来あがった作品は、さりげなく身にまとい、おしゃれをしてお出かけしたいです。

図書館ニュース

開館時間と休館日
<開館時間> 火～金 9:30～18:00
土・日 9:30～17:00
<定休日> 月曜日・祝祭日・年末年始

図書館カレンダー

Table with columns for date, day, and event details like '絵本とわらべうたの会' and 'ブックスタート'.

○の日は休館です。

らいぶらりいブックレビュー
こんなものもあります
旬の本・話題の本・意外な本



「かむさり 神去なあな日常」
三浦しをん著
徳間書店

横浜育ちの平野勇氣。高校卒業と同時に放りだされた就職先は、山奥の神去(かむさり)村、中村林業株式会社。山と生きる村人の剛胆さと、「なあなあ」のおっとりさに触れ、山の気、木や土や水の息吹を心地良く感じ始める。林業・やってみるとおもしろい。

わたのおはなしの本紹介です

子どもに本を買ってあげる前に読む本

赤木 かん子著 (ポプラ社刊)

何か面白い本、絵本はないかと一歳から九歳、息子四人分の本をあれこれ選んで借りてくる。家に持ち帰り広げた本を見て「ぼくの読む(見ると本がない)」と言われてしまうことがある。そして読まれることなく返される本がある。

息子の一人はお気に入りの本がある。『さつくんシヨベルカー』『がんばれブルドーザーシヨベルカー』『地下鉄がでるまで』『建造物の世界』『建築施工』『ぼくちひつこし』『いねかりやすみ』『クマくんのジャムつきパンのバタつきパン』などなど。これらの中から図書館にある本を、と頼まれる。何度も同じ本ばかり借りるので買った方がいいかな、と考

えていた時、新刊の棚に『子どもに本を買ってあげる前に読む本』があった。本の買いたし時のアドバイスはなかった。私が借りてくる本が喜ばれない理由、いつも同じような本を選ばない理由が書いていた。読み手のタイプは『リアル系』(実用書・ノンフィクション・図鑑など)と『空想系』(小説など)に分かれるそう。小さい子どもは明確に分かれないようなのだが、お気に入り本を挙げた息子は『リアル系』だと思ふ。そして私は『空想系』。私が選んでくる本がいまひとつ気に入られないわけである。タイプが違っていたのだ。そして本の内容ではなく、

前夜の雨も上がり、新緑も眩しい京都の北野天満宮を三年生と共に訪れた際、女子生徒の一人が、私のところに近づいて来て、「校長先生、携帯貸してください」と話しかけてきた。中学生が修学旅行中に携帯電話を必要とすることもありえないし、まして、中学生と携帯といえ、問題行動と関係するのでは」と判断してしまった私は、「どこに電話をするの」と、やや強めに聞き返した。生徒は、一瞬、躊躇したような表情を浮かべながらも「北野天満宮のお守りをおばあちゃんのお土産にしたいんです」「この長寿お守りには干支が入っていて、おばあちゃんの干支がわかかなければ買っていくことができないので、お母さんに確認したいんです」との応えが返ってきた。短絡的に、携帯と非行を結び付けてしまった自分自身の浅はかさを恥じると共に、祖母へのお土産に長寿お守りを選んだ生徒の健気さと温かさに感心したこともあり、早速、携帯を生徒に渡した。

たなばたおはなし会
たなばたおはなし会を7月19日(日)午前10時30分から図書館3階多目的室で行います。大きな絵本の読み聞かせやパネルシアターなどを企画しています。大勢のご参加をお待ちしております。事前の申し込みは必要ありません。

新着図書案内

- 三毛猫ホームズとオペラに行こう 赤川 次郎
男道 清原 和博
ジエナル・ルージュの伝言 海堂 尊
貧困の僻地 曾野 綾子
無趣味のすすめ 村上 竜
緋色の空 池永 陽
訪問者 恩田 陸
厭な小説 京極 夏彦
大きな約束 続 椎名 誠
きりぎりすについて 田牧 大和
たまゆらの愛 西 加奈子
マリリン・モンローという女 藤田 宜永
生活・技術・趣味 藤本ひとみ
なぜか夫婦がうまくいく3つの習慣 吉岡 愛和
働女(ひと)の伝わる話し方 新ルル市川 浩子
森林セラピーガイドブック 天人の選書BOOK 十戸バツシツ
デマークの高齢者が世界幸せなわけ 沢渡代リント
科学の落とし穴 池内 了
季節と暮らし365日 日本気象協会
メタボリアン改造計画 西村 周三
自転車のメンテナンス 白井 友次
リネンとコットンで作る服 坂内 鏡子
六ヶ島地酒(楽)しむ山の麓のうまい蕎麦名峰の麓研究会
珈琲のすべてがわかる事典 堀口 俊英
夏のおいしいおやつ100冊 監修 八月社
地下鉄の謎と不思議 谷川 一巳
立ちあがる(ニッポ)の猫尊真集 岩合 光昭

「長寿お守り」とことば磨き

飯山市立第三中学校校長 吉越 眞一

用向きを簡潔に伝え、祖母の干支が「戌」であることを確認すると、母親に対して「修学旅行を楽しんでいるから、心配しないでね」と言い残して電話を切った。生徒と母親の間で交わされた言葉の端々に、言語能力やコミュニケーション能力の確かさは、もちろん、その背後にある、家庭内の温かさや彼女自身のやさしさも感じ取ることができた。

第三中学校は、本年度末をもって四十二年の歴史に幕を閉じようとしている。最後を飾るに相応しい学校づくりの一環として、「ことばの力をつける」ことを重点として位置づけ、「気持ちの通うことば」「思考を伝えることば」「時や場に応じたことば」「正しく美しいことば」の四つの視点から、言語環境を整えていきたいと考えている。巷で氾濫する「バカ・シネ・キモイ・ウザイ」等の相手の心を折る言葉を校内から追放することとはもちろん、「たった、その一言が相手の心を傷つける」「たったその一言が相手の心を癒す」という、言葉の持つ功罪両面を意識しながら、「その一言で絆が強まり、その一言で、共に励ま

される」学校創りを行っていきたいと思っている。私の好きな言葉に「毎日毎日の足跡がおのずと人生の答えを出すきれいな足跡には、きれいな水がたまる」という相田みつをさんの詩がある。相田さんの詩からは、私たちが家庭において、あるいは、学校や社会において、日々、発する言葉の足跡を美しく整えていくことにより、人権感覚が磨かれ、やがて、お互いを思いやり、素直に心を通わせ合うことができるという解釈することもできる。携帯電話による女子生徒と母親とのやり取りも、家庭内で交わされる日々の会話が澄んだものであるからこそ、「祖母へのお土産は干支の入った長寿お守りにしよう」という温かい心根となつて表れたものと言えるであろう。この女子生徒のような優しい心根を持つ生徒が満ち溢れる学校づくりをすることこそ、最後を飾る相応しい第三中学校になることを目標に、まずは「教師のことばが教育環境づくりの第一歩」をモットーに、全校でことばを磨き、ことばを整える学校をめざしていきたい。